

協議会だより

DHA・EPA協議会

〒151-0062

東京都渋谷区元代々木町 32-7

一般財団法人日本水産油脂協会内

TEL & FAX: 03-3469-6931

URL: <http://www.dhaepa.org/>E-mail: dha_epa@par.odn.ne.jp

天然マグロと養殖マグロ

顧問 米久保 明得

平成 25 年(2013 年)巳年の始まりは恒例の箱根駅伝と築地での初競りでスタートした。

築地市場の今年の初競りで、大間(青森)産、重さ 222 kg の生鮮本マグロは、金額 1 億 5540 万円(キロ単価 70 万円)の高値で落札された。昨年の 3 倍で、争い過熱と評された。中国等海外に持っていかれるよりは、日本で食されることを考えると、一応よしとすべき結果であろうか。本マグロの資源の枯渇が懸念される中、国際的にも漁獲枠が定められている。この現状を鑑みて、サケ、マスなどと同様、養殖マグロへの取組が盛んになってきている。2011 年に国内に流通された本マグロは 4 万トンで、そのうち養殖物は 6 割を占めるといわれる。天然物から養殖物への切替のきっかけをしかけている業者がいる。

水産庁の 2011 年の調査では、14 府県に 137 の養殖場があり、出荷量は約 9 千トン、鹿児島が 1 位、長崎が 2 位で、卵の孵化から始める完全養殖はごくわずかで、天然魚をイケスで育てる蓄養が大半であるという。知事の免許が必要で、5 年に 1 回切替がある。前回 2008 年に商社や水産大手の参入、拡大が相次いだとのことである。太平洋のマグロ漁獲量(匹数)の 9 割は 0~1 歳の幼魚で幼魚の乱獲に対して国際的な批判もある。水産庁は幼魚の乱獲を防ぐために今年の養殖免許切替で、イケスの拡大を認めない方針であるという。しかし、今後養殖マグロの生産が益々増加していくと考えられるが、果たして将来どのような状況になるのだろうか？

大間ブランドといっても超高値はごく一部で、養殖の普及で、マグロ全体は安値傾向にある。市場において、天然物と養殖物との良好なバランスが構築されることを期待したい。

マグロの安定供給のために地中海のイケスで太ったマグロも食されているのであろう。

《幹事会のうごき》 平成 25 年 1 月 11 日(金)15:00~17:00、一般財団法人日本水産油脂協会新館において平成 24 年度第 9 回幹事会が開催された。

- ・次年度事業計画として、DHA、EPA のパンフレットを検討したが、取り敢えず、協議会ホームページの充実をはかることにした。
- ・総会講演会について具体的な講師を検討した。総会講演会の詳細については、新年度に入ってから通知いたします。